

「やさしさの充ちる社会を目差して」2010年頭

新春をお慶び申し上げます。新しい2010年が厳しい社会状況を何とか克服し、世界的視野で飢えや食料・環境問題を考え、社会全体が、国民一人ひとりの生活を支え合う負担のあり方を真剣に検討し、一日も早くドイツ並みの「やさしい社会」が実現され、将来の不安がなく、子育てや雇用が自分の意思で選択出来る社会を構築しなければと強く思う年頭です。

去年は私の最大の公約の一つであります「がんで苦しむ人をなくしたい」がん制圧体制の確立のために長野県のがん対策の行動計画の推進に県内外を飛び回りました。2010年は知事を本部長とするがん対策本部が設置され、「いつでもどこでも等しく適正ながん治療が受けられる」をテーマに掲げた長寿県日本の長野県のがん対策が本格的にスタートします。国県市町村の医療関係者や患者会の皆様のご協力できっかけ創りができたことうれしく思うしだいです。

戦後初めての本格的な政権交代になり、二大政党時代の到来かと思えます。欧米では責任ある二つ政党が互いに切磋琢磨し、政策が行き詰まるたびに交代し、成熟社会の歴史を創ってきました。

日本でも、一時的な人気対策でない、目差す社会をわかりやすく説明し、国家百年を考えた大地に根の張った政策実行で国民の支持を得る政党がしっかりと育っていただきたい願うところです。

長野県政は、村井知事の手堅い施策の実行で、確実に経済力を取り戻してきた矢先、リーマンシックの世界的不況に飲み込まれ、ものづくり産業を中心に戦後最大の厳しさと直面しています。

この不況を乗り切るために、緊急経済対策を確実に実施してきましたが、この世紀の大改革に沿った産業の育成を新たに開発していかなければ生き残れないと思えます。

そのためには私はまず教育の再生だと思えます。日本が目差す将来を背負うし人材創りこそ何よりも大切にしなければなりません。信州教育は「蛍雪の心と唱歌母さんの歌にある家族愛」だと信じます。ダイナミックな教員の育成も大切であります。

さて北アルプス山麓（大北広域）はいま最も大切なときです。景気回復、医療、雇用の確保、観光、ものづくり、農林業等の振興を図らなくてはなりません。ないものねだりでなく、地域の優れものや輝きを発掘し磨きをかける「北

アルプス山麓ブランド」は三年の創世期が終わり、今年度から事業化に向けた三年計画の初年度に入ります。今年はテレビ番組作成も含め全県へそして全国へと確かな歩みを企画しています。また「母ちゃんとばあちゃんとじいちゃん」で農産物 200 万円」の農畜産物直売事業「もてなしネットワーク」も順調に輪が拡大しています。楽しみです。

しかし働く場を創り、景気を回復するためには企業誘致が欠かせません。そのために命を結ぶ道路「松本―糸魚川地域高規格」の一日も早い完成が何より大切で「気持ちをひとつにしてみんなが真剣に汗すること」です。

市立大町病院、厚生連安曇総合病院の充実による第 2 次医療圏の完結医療体制の実現を急がねばなりません。県立病院も公立から独立経営に移行しました。医者や看護婦の確保はそうたやすいものではありません。

他県や他の医療圏の動きを直視しながら、勇断を振るうときかもしれません。

大変な変化のときこそ、正しく現実を見つめ、大胆に改革しなければ将来はありません。

今年はそのような変革の本舞台の幕が上がる気がしてなりません。

自然がどこよりも美しく、人が勤勉な信州、北アルプス山麓安曇野の可能性を信じて、精一杯の汗をかく決意です。

皆さんのご健勝をお祈り申し上げ長野県に住む人たちの笑顔が輝く一年でありますことご祈念しご挨拶といたします。

2010 年元旦
長野県議会議員

宮澤敏文